日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本病理学会
理事長　北川　昌伸

Ⅰ.医学および医療水準の向上への貢献

a.学術的に重要と考えられるもの

1．　学術集会、「病理学会カンファレス」（学術セミナー）、各種講習会等の開催

2．　学術誌（“Pathology International”「診断病理」「日本病理学会誌」）の刊行

3．　研究の奨励及び研究業績の表彰

4．　病理剖検報データベースの構築

5．　外部資金による研究

(1)「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」の策定（AMED 委託研究）

病理組織検体のゲノム等オミックス解析は、疾患発生の分子基盤を明らかにし、バイオマーカー開発や創薬標的同定に結びつく。病理組織検体の質は、このようなデータ駆動型研究の成否の鍵を握る。質の高い病理組織検体を多くの医学研究者に提供できるよう、本規程の策定を行った。

・本規程は冊子体を無償で各大学講座や研究機関へ配布した。

・同規程を学習できるよう、e-learning サイトの構築、公開をした。

・「ゲノム病理標準化講習会」を定期開催し、病理医のみならず臨床検査技師やその他研究者への知識の普及を行っている。

・これに続きゲノム診断の実施にたえる病理組織検体の質の担保を目指し「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」の策定を行い、上記 1 とあわせて冊子体として刊行している。こちらも e-learning サイトの活用、講習会での学習が可能である。

(2) 病理画像(P-WSI)情報集積プラットフォーム事業（通称：JP-AID）（AMED 委託研究）

慢性的な病理医不足により、地方を中心に適切な「病理診断」をうけることが困難な状況が見受けられる。この状況を打開するべく遠隔医療の推進と、病理診断補助ツールの開発により、医療の均てん化と、充実をはかることを目的としている。

・病理診断支援のための人工知能（Artificial Intelligence; AI），すなわち「病理診断支援 AI 」の開発と実装を行う

・P-WSI 画像のデータベースを構築、研究者へ公開予定

・病理 AI に関するガイドラインを策定、公開予定

b．当該領域における国際的な役割

1．学術集会における国際交流事業の実施

(1) 英国病理学会との交流（シニア研究者及び若手研究者の招聘と派遣）

(2) ドイツ病理学会との交流（シニア研究者の派遣と招聘）

（3）ヨーロッパ病理学会との交流（シニア研究者・中堅クラス研究者の派遣と招聘）
（4）中華病理学会との交流（シニアおよ若手研究者の招聘と派遣）
（4）アジア各国との交流（若手研究者の招聘）
（5）その他の国との交流（トラベルグラントの授与）

2. IAP（国際病理アカデミー）日本支部との連携
3. ICCR（INTERNATIONAL COLLABORATION ON CANCER REPORTING）への加盟による癌の病理報告書の国際的標準化事業への参画

C. 活動からもたらされる社会的な意義

病理学に関する学理及びその応用についての研究の振興とその普及によって学術の発展と人類の福祉に寄与している。

1. 病理医の診断力の向上と質の担保
   ・病理専門医制度、口腔病理専門医制度、分子病理専門医制度の運営実施
   ・各種講習会等の開催
   ・希少がん診断のための病理医育成事業（厚労補助金事業）の実施
2. すべての国民が確実で適切な診断を受けることができるような働きかけ
   ・遠隔医療の推進、病理医の業務負担の軽減と効率化、診療報酬の提案、
   ・適切な診断の元となり、さらにゲノム医療等にもつながる病理標本の適切な取扱いに関する実証実験の実施や、ガイドライン等の策定、その周知による医療水準の向上
3. 学術交流の推進、顕彰等による医学研究の活性化
4. 研究用データベースの充実

d.学会運営上留意している点

・病理学研究を通じた国民医療への貢献
・病理診断の質の担保と関係機関との連携
・社会から求められる公平性、透明性の担保とコンプライアンスの遵守

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる日本病理学会と他の分科会との連携による活動

1．各種「癌取り扱い規約」、診療ガイドラインの策定における連携、協力及び領域横断的がん取扱い規約の策定
2．各種団体との連携フォーラム等の開催（医学検査学会、整形外科学会他）
3．医療情報学会との共同研究参画「医用画像データの匿名加工化による 2 次利用に関する実証研究」
4．画像研究 6 学会（日本病理学会、日本消化器内視鏡学会、日本医学放射線学会、日本眼科学会、日本皮膚科学会、日本超音波医学会）との連携